

第2回地域教育中予ブロック集会報告書 (文部科学省委託事業)



平成30年2月17日(土) 13:00~16:30

於：愛媛県身体障がい者福祉センター

2階 大会議室

主催 地域教育中予ブロック集会実行委員会

共催 地域教育実践交流集会

後援 愛媛県 愛媛県教育委員会 「えひめ教育の日」推進会議

愛媛県教育研究協議会

地域教育中予ブロック集会(文部科学省委託事業)開催要領

- 1 趣 旨 中予管内において子どもを取り巻く課題解決、地域の教育力の向上、あるいは地域課題の解決等に向けて日々奮闘している人たちが、「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉に元気を分かち合い、新たな展望を抱ける場を設ける。特に、次代を担う新・旧若者たちが自発的・積極的に人・もの・こととつながりながら共に地域づくりを進めていく取組の活性化を図る。
- 2 日 時 平成 30 年 2 月 17 日(土) 13:00～16:30
- 3 場 所 愛媛県障がい者福祉センター 松山市道後 2-12-11
- 4 主 催 地域教育中予ブロック集会実行委員会
- 5 共 催 地域教育実践交流集会実行委員会
- 6 後 援 愛媛県 愛媛県教育委員会 「えひめ教育の日」推進会議
愛媛県教育研究協議会

7 内 容

12:30 13:00 13:10 14:45 15:00 16:20 16:30

受 付	開 会 行 事	実践発表	休 憩	インタビューダイアログ ～若者による実践発表を通して みんなで語り合おう～	閉 会 行 事
--------	------------------	------	--------	---	------------------

○ 開会挨拶 地域教育中予ブロック集会実行委員会委員長

○ 実践発表

- しみずサポートボランティア
- 聖カタリナ大学 学生ボランティアセンター
- 愛媛大学法文学部佐藤亮子ゼミ

○ インタビューダイアログ

～若者による実践発表を通してみんなで語り合おう～

<ファシリテーター(聞き手)>

まちづくり学校双海人 教頭 富田 敏 氏

○ 閉会挨拶 地域教育中予ブロック集会実行委員会副委員長

8 参加費 500 円 但し学生は無料

9 参加申込み 締切:H30.1.31(水)

参加希望者は、所属・氏名を明記して、下記のアドレスにメール送信してください。

<申込みアドレス> yamaguchi-sadanobu@pref.ehime.lg.jp

<問合せ先>

愛媛県教育委員会中予教育事務所社会教育課 社会教育主事 山口定伸

松山市北持田町 132 番地 Tel: (089) 909-8780

開会挨拶

地域教育中予ブロック集会実行委員会委員長

眞鍋 幸一

この大会は、子どもを取り巻く課題解決、地域の教育力の向上、地域課題の解決等に向けて日々奮闘している人たちが「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉に元気を分かち合い、新たな展望を抱ける場を設け、特に、次代を担う新・旧若者たちが自発的・積極的に人・もの・こととつながりながら共に地域づくりを進めていく取組の活性化を図ることを趣旨としている。

今回の実践発表は、しみずサポートボランティア、聖カタリナ大学学生ボランティアセンター、愛媛大学法文学部佐藤亮子ゼミの皆さん、ファシリテーターは、おなじみ「まちづくり学校・双海人」教頭・富田敏さん。

今回歓迎アトラクションは省き、実りある元気の出る話合いの時間を多く取ることにした。お土産は、お茶・ペン・国立大洲青少年交流の家クリアファイル等、たくさん用意した。クリアファイルには子ども夢基金の案内が載っており、是非ご活用いただきたい。でも、本当のお土産はこれからのインタビューダイアログ。たくさん持ち帰ってもらいたい。

そしてこの「こそ丸」。この錠剤は見える人と見えない人がいる。「妻がおればこそ」「仲間がおればこそ」の「こそ」である。間違っても「おらがこそ」と思ってしまうはいけない。成分は「愛情」「謙虚」「感謝」「元気」。森岡まさ子さんの特許で、岡山旭東病院で108円で販売している。この話から、アンデルセンの寓話「裸の王様」を思い出した。新しい服が大好きな王様が二人の詐欺師に騙されて「愚か者には見えない服」を着てお披露目のパレードをする。集まった国民は馬鹿と思われたくなくて衣装をほめそやすが、子どもが「王様は裸だ！」と叫び、群衆が騒ぎ出す中、王様のパレードは続くというお話。王様も、自分が服を着ていないことに気付いた後もパレードを続けたことが偉いと、今、思っている。自分の愚かさを隠すことなく、堂々と国民に示したことが素晴らしいと思う。この会は、皆さんの心をリフレッシュする会でもあるので、「こんなことを言ったら笑われるかも」などと思わずに、今の気持ちを率直に話していただければと思う。

この会のめざす「地域教育」とは、大まかに言えば「地域をフィールドに、地域の人々が主体になって、教育を行う環境を整えながら、子どもたちに社会性と世代の継承を自覚させる『ふるさと運動』であり『教育活動』であると、親会（地域教育実践交流集会）実行委員長の若松進一氏も述べている。「伸びる社会」から「縮む社会」になろうとしている社会では、健全な子どもを育てることは容易ではない。人間は他の動物と同じように、次世代のために生きている。人間は連綿と次世代にバトンを渡しながらか生きてきた。教え育むことがわたしたちの責務。地域、先祖の歴史、伝統、文化を伝えなければ、そして、習わなければならない。

長い挨拶となったが、わたしの好きなCMのフレーズ「こ・こ・ろ・を、満タンに～」のように、ご参加の皆さんにとって有意義な時間となるよう、祈念して開会の挨拶とさせていただきます。

実践発表①

【実践発表①「世代をつなげる居場所づくり」の概要】

世代をつなげる居場所づくり

しみずサポートボランティア

松山大学人文学部社会学科 4回生 大澤未咲

松山大学人文学部社会学科 卒業生 榎本由維

1 いきがい交流センターしみず

清水小学校の余裕教室を活用し、設立された施設である。施設では、高齢者の生きがいづくりを応援しており、サロン「友遊しみず」や各種講座などが日々行われている。

「友遊しみず」では子どもたちとの交流授業も行われ、休み時間には子どもと地域の方や若者ともふれあえる場でもある。

2 主な活動内容

- ・昼食交流
- ・昼休みの見守り
- ・交流授業のサポート
- ・イベントの企画・実施
- ・コミュニティ花壇
- ・ミーティング



3 活動を通して

元々、消極的な性格で、常に受け身だった。しかし、しみずサポートボランティアの活動は自主性を大切にしており、自らが動かないと活動にならない。昼食交流で話せなかったり、高齢者と子どもをうまく橋渡しできなかったりなどの反省とチャレンジを重ねながら、人見知りが改善され、積極性が身につき、自分を成長させることができた。また、しみずサポートボランティアは自分にとっても大きな存在となっている。

4 今後の生活に活かしていきたいこと

継続することで見えてくるもの、できることが増え、活動の幅も増えてきている。自分のやることに対して責任をもち、積極的に新しいことにも取り組んでいきたい。

5 サポートボランティアを卒業して

広島で一般企業に就職し、結婚を機に地元愛媛に戻り、現在宇和島の障害児通所施設『あけぼの園』で児童指導員をしている。サポートボランティアをきっかけに、さまざまなボランティア活動にも繋がり、たくさんの人との出会いの中で自分自身の成長にも繋がった。そして将来の夢を見つけた。学生時代のボランティア経験が、社会人としての基盤を作り、現在の自分の力となっている。いきがい交流センターしみずは高齢者や子どもの居場所であり、私自身の居場所でもあった。どんな形であれ、そんな場所を今後作っていききたいと強く思う。

【実践発表①「世代をつなげる居場所づくり」の発表内容】

○ しみずサポートボランティア・松山大学人文学部社会学科 大澤未咲さん

1回生のころから活動に参加している。まず、「いきがい交流センターしみず」について説明する。しみずは四国で初めて小学校の余裕教室を活用し、設立された複合施設。設置主体は松山市で、運営主体は松山市社会福祉協議会、協力団体は清水地区社会福祉協議会。高齢者の生きがいづくりの場、そして、清水地区を中心とした地域福祉活動の拠点となっており、異世代の交流も盛んに行われている。詳しくは、配布した青いリーフレットをご覧ください。



次に、「しみずサポートボランティア」について説明する。このボランティア活動は、平成17年12月に始まった。センターを利用する高齢者や地域の方と子どもたちとの交流の橋渡し役として活動している。幅広い世代の方との交流や地域と関わることができる。現在メンバーは8名。これまでの活動者数は78名に上る。

しみずサポートボランティアの活動を写真と共に紹介する。まず「昼食交流」。曜日によって、しみずで高齢者と子どもたちが一緒に給食を食べたり、子どもたちどうして食べたりしている。次に「昼休みの見守り」。写真は、昼休みの時間、子どもたちと一緒に掲示物を作ったり、イベント準備を行ったりしている様子。子どもたち同士の交流の場となっている。そして、年間を通した「交流授業のサポート」。写真は「うちわづくり」の様子。子どもたちと地域の方・高齢者とが交流する橋渡し役をしている。次に「イベントの企画・実施」。写真は、「しみずまつり」のバザー会場にブースを設け、魚釣りゲームやバルーンアートを行っている様子。次の写真は「コミュニティ花壇」。しみずの入口に季節の花を植えており、土づくりから手掛けている。花壇の維持費は地域の方が募金してくれている。花壇の様子を掲示板でお知らせし、間接的な交流をねらっている。最後の写真は「ミーティング」の様子。司会は当番制にしている。活動の話合いのほか、「社会人に聞く」ということで、ボランティアのOBやOGからお話を聞く機会などもある。

活動を通しての自分の変化について話したい。活動を始めた当初、自分は常に受け身で、「何をしに来ているのだろう・・・」という状態だった。しみずサポートボランティアは、自主的に活動することを大事にしていたので、自分がうまく活動できないことを反省することが多かった。

具体的に、イベントの企画・実施での自分の変化を見てみたい。1回生の時の「絵手紙」では、人任せでぼんやりしていて、自分から質問もせず、受け身だった。反省点が多く、満足いくものではなかった。それが2回生の「お掃除モップ作り」では、それまでの反省から、企画内容を見直したり、対象学年を拡大したりした。広報活動も見直したり、役割分担を行ったりした。臨機応変に対応できた。みんなを引っ張っていく存在となり、反省点もあったが、全体的には満足いく結果になった。写真は、地域の方から作り方を習ったり、練習したりしている様子、当日の様子、子どもたちがボランティアや地域の方と一緒に作業している様子、完成品と集合写真。

最後に、これからに生かしていきたいこと。1回生から継続してボランティア活動を行ってきたが、継続したからこそ、できることが増えたのだと思う。学年が進むにつれて責任感が高まり、積極性も生まれていった。継続する力、責任感、積極性は、これから社会に出ても生かしていきたい。

○ しみずサポートボランティアOG 松山大学人文学部卒業生 榎本由維さん

松山大学人文学部社会学科では福祉を学び、6年前に卒業、卒業後は県外の一般企業に就職し、塾の教室長として4年働き、結婚して愛媛に戻ってきた。今は放課後児童サービス事業所で働いている。

ボランティア経験が豊富で、大学時代にはしみずでの活動のほか、児童館や精神科病院デイケアのパソコン指導のボランティア、障がい者支援施設での短期ボランティア、海外ボランティアにも参加した。社会人になってからは、学生の頃のようにはいかないが、単発のボランティア活動に取り組んでいる。

ボランティア活動を通して得たことは、まず、「将来の夢を見つけるきっかけ」となったこと。漠然と福祉の世界で働きたいという夢はあったが、ボランティア活動で出会った「気になる子ども」に、1年、2年と関わるうちにその子の様子に変化していき、子どもたちに「第三の場」が大事だと思い始めた。スクールソーシャルワーカーとして働いてみたいと考えるようになった。二つ目は、「つながりの大切さ」を知ったこと。ボランティアのメンバーにはいろいろな年代の人がいて、尊敬できる仲間や先輩、職員と出会うことができた。また、パソコンボランティアの活動では、百人一首の話題から、子どもの頃の恩師につながり、新たなボランティア活動に取り組むことになった。ボランティア活動をしていたからこそその新しい出会いがあったり、再会があったりすると感じた。三つめは、「自らの成長につながった」ということ。

三つめの「自らの成長」について、詳しく話したい。活動を始めた当初、しみずで子どもたちが来なかったとき、「せっかく来たのになあ」と、ただ待っていただけだった。職員さんへ質問したり自分から探したりすることもしなかった。しばらくして先輩が卒業し、ボランティア不足の事態を迎えて「自分に何かできることはないか」と考え、下の学年の授業で、大学の先生にお願いしてチラシを配らせてもらった。その結果、二人の新しいメンバーが入ってくれて、とても嬉しかった。自分で考えて動けるようになったと思う。自分で考えて動けるようになったことは、社会人1年目の塾の立ち上げ時にも「何かできることはないか」と動けたことにつながっている。また、自主企画の提案をしたことも良い経験になった。新しく自分が提案した内容について、ニーズがないと反対され、仲間と意見が合わなかったりしたとき、職員さんは結論が出るまで黙って見守ってくれていた。しっかりと自分の意見が言えるようになったと思う。

わたしの場合、ボランティアの経験は社会で働く上での基盤になったと感じている。社会に出て、塾の教室長として、1年目から人を動かす経験をした。教室に社員が一人だったこともあり、アルバイトの学生にどう動いてもらうのがいいのか、どうやったら自主的に動いてもらえるのか考える機会があり、そのときにしみずの職員の私への声かけや、私が来たときの対応のことを思い出していた。自分が自主的に動けるようになったからこそ、相手に動いてもらうためにどうすればいいのか、考えられたのだと思う。

仕事をやめてから、当時働いていたアルバイトの学生と話したときに「バイトだけど、ボランティアしながら自然にお金が入ってくる感覚でした」と言われた。大変なこと、思うことがたくさんあったからこそ、社会にでてからも、どう動けばいいのかのヒントとなったのだと思う。

また、いきがい交流センターしみずは私にとっての居場所でもあった。これは大澤さんも同じ思いだと思う。そしていつか、私も誰かにとっての居場所が作れるような存在になりたいと思っている。

実践発表②

【実践発表②「カタリナ散歩道」の概要】

地域プロジェクト 「カタリナ散歩道」

聖カタリナ大学 学生ボランティアセンター
高須賀 優香 越智 友理乃 一木 和希

1 ボランティアセンターとは

- ・大学内のボランティア調整機能（ボランティア情報を公開、募集、参加）
- ・学生主体の活動
- ・ボランティアウィークの開催（ボランティアセンターが主体となって行うイベント）
- ・他のボランティア団体との交流
- ・地域貢献活動

2 地域に着目した理由

- ・地域福祉への期待度上昇
- ・ボラセンの北条地域での知名度 up

3 まちづくり応援隊の起爆剤

12月に一般財団法人「学生サポートセンター」より平成27年度の活動が評価され、平成28年度「学生ボランティア団体支援事業」（助成金10万円）表彰を受ける。

4 春休み合宿 —*—地域まちづくり応援隊結成—*—

〈目的〉 地域活性化のためにボランティアセンターで何ができるのかを考える。

〈内容〉 北条地区の歴史、北条地区の強みと課題、4つのグループに分かれて、活動提案（北条地区まちづくり協議会の方と協働）

〈流れ〉 4つの案から→「元気アップ作戦」に決定→作戦会議→具体的活動の検討

〈元気アップ作戦の採用案〉 街中をアートギャラリー化、竹灯籠の設置

（歩きにくい道・歩きたくない道を歩きたい道にしたい）

〈実施に対する課題〉 予算の不安、実施場所の見通しが無い、竹灯籠を作る技術が

無い（現在つながりがない・竹林はある）→私たちは北条を理解しているのか？→

北条について知る→知ったことを学生の視点から（SNSなどで）広報する→カタリナ



散歩道の誕生

5 「カタリナ散歩道」

本学の学生が北条地区まちづくり協議会のサポートを受けながら学生主体で北条のまちづくりを応援してみようという活動

〈活動内容〉・・・北条の魅力を発信 Twitter @Catharine0325

- ・第一回目（4/16）北条駅、鹿島神社 散歩&写真撮影
- ・第二回目（5/3）北条鹿島まつり //
- ・第三回目（6/11）北条バスターミナル周辺 //
- ・ボランティアウィーク（7/10～15）にて写真学内展示
- ・えひめ国体開催中 北条スポーツセンター（9/30～10/10）にて写真展示
- ・第四回目（10/8.9）北条秋祭り 散歩&写真撮影
- ・にぎわい祭りにて写真展示 //

6 成果

- ・地元北条地区に対する意識がアップした。
- ・愛媛CATVとのつながりを持ち、テレビ番組を作成し、北条をPRできた。
- ・学生の活動の認知度がアップした。
- ・地元北条からボランティア依頼が増えた。
- ・北条の行事に大勢で参加し、地域とのつながりが強化した。（祭りを活性化）

7 今後の活動

- ・単独あるいは1グループ4～6人で活動する。
少人数での散歩なら日程を合わせやすい。自由に写真を撮りに行くことができる。自然、季節の写真を取り入れることができる。
- ・イベントよりも歩いて写真、動画を撮ることを優先させる。（北条の宝探し）
- ・多くの学生が参加できるようにする。
- ・北条をPRするための小冊子（A5判1000冊）を作成し、行政施設等に配布する。

【実践発表②「カタリナ散歩道」の発表内容】

- 聖カタリナ大学 学生ボランティアセンター 一木和希さんと越智友理乃さん

まず学生ボランティアセンターの紹介をする。ボランティアセンターは、学内外からのボランティア募集を学生に案内している。学生が主体となって活動しており、ボランティアウィークの開催や他のボランティア団体との交流、地域貢献活動を行っている。社会福祉協議会とも定期的に協議を行っている。



次に、自分たちが地域に着目した理由だが、近年「地域福祉」への期待が高まっていることや、大学のある北条地域で、学生ボランティアセンターの知名度を向上させたかったためである。「まちづくり応援隊」の名前を掲げたことが起爆剤となり、2016年12月に一般財団法人「学生サポートセンター」から前年度の活動が評価され、平成28年度「学生ボランティア団体支援事業」として10万円の助成金を受けた。それにより、

自分たちは何がしたいのか、地域活性化のためにボランティアセンターで何ができるのかを考える合宿を行うことになった。合宿では、北条地区の歴史や強みと課題を学び、4グループに分かれて活動を提案し、さらに北条地区まちづくり協議会の方と一緒に内容を深めた。各グループからは、鹿島やお祭り、空き家に注目したプロジェクトなど、長所と短所を生かした内容が提案された。

選ばれたのは、「北条を歩いて元気アップ作戦」。北条を、歩きたくなる・歩いて楽しいまちにする、というもの。企画した内容は、道路のアートギャラリー化や竹灯籠の設置など。イルミネーションを好む若者の視点から考えた。ただ、実施について具体的に考えると、予算の使い道や過不足がはっきりせず、また、どの道が良いか、いつの時期が良いかなど、実施場所や日程が決められなかった。具体的なイメージがわからず、まずは設置場所を歩いて探しながら北条を知ることになった。「知らない」状態から「知ろう」とし、さらに、自分たちが知ったことを学生の視点から「伝えよう」ということになり、SNSを活用して北条の魅力を広めることにした。このような考えから、「カタリナ散歩道」が誕生した。

カタリナ散歩道の基本的な考えは、カタリナ大学の学生が北条地区まちづくり協議会のサポートを受けながら学生主体で北条のまちづくりをしてみようというもの。平成29年度の目標は、学生がまちを歩いて撮影した写真をSNSに投稿し、それを最終的には月ごとに冊子にし、行政・民間施設に配布する。具体的には、4月16日に北条駅と鹿島神社で第1回目の活動を行った。フリーカメラマンから撮影の指導を受け、桜のシーズンの趣ある写真が撮影できた。第2回目は5月3日に北条鹿島まつりに出かけ、櫛練り（かいねり）やだんじりの迫力ある写真が撮影できた。第3回目は6月11日に北条バスターミナル周辺を散策し、春とは違う季節の写真が撮影できた。第4回目は、10月の8日・9日と、二日間にわたる北条秋祭りのある雰囲気に触れることができ、地域住民とのつながりが深まったと思う。これらの写真は、学内のボランティアウィーク、えひめ国体、にぎわい祭りにおいて展示し、多くの人に見てもらえた。

活動の成果としては、まず、北条地区に対する関心が向上し、意識が向上した。また、愛媛CATVに協力してもらい、つながりができた。地域住民の皆さんに、学生の活動を認知してもらうことができた。そして、子どもだんじりや秋祭りだんじりなどの地域の行事に参加することによって、イベント活性化に貢献できたと思う。

今後の活動方針としては、1グループ4～6人で活動することにし、イベントよりも歩いて「学生が良いと思う北条」を撮影することを優先する。少人数であれば日程を合わせやすいし、学生も空きコマを利用して自由に写真撮影できるし、季節の写真も取り入れやすくなる。もっと多くの学生に参加してもらおうようにし、北条をPRするための小冊子を作成し、行政や民間施設等に配布したい。ぜひ皆さんも、北条に足を運んでもらいたい。

【実践発表②「カタリナ散歩道」の質疑応答】

- Q SNSで発信されているとのことだが、それを見ているのはどんな人たちが多くか？
また、実際に『SNSで見たことがきっかけで足を運んだ』という人はいるか？
- A まだ活動を始めて1年なので、学内での広がりはあるが、学外での認知度は低い。今

後広げていきたいと思っている。

Q 使っているのはTwitter とのことだが、Facebook の方が良いのでは？

A 情報発信は、学生ボランティアセンターのTwitter アカウントでやっている。今後は他のものも検討したい。

Q まち探検やアートギャラリー、竹灯籠の企画は、子どもたちでも楽しく取り組みそうだった。課題は『どこに』だと思うが、その後はどうなっているか？

A 徐々にめどはついてきた。北条のお祭りに合わせたり、民間の道路や神社、店の前など、可能性は見え始めてきたりしているが、まだはっきりはしていない。

実践発表③

【実践発表③「学生が運営する愛太陽ファーマーズマーケットの挑戦」の概要】

学生が運営する愛太陽ファーマーズマーケットの挑戦

愛媛大学 法文学部 人文社会学科 佐藤亮子ゼミ 2 回生
菅花穂 迫田郁子 柴野真実 廣見夏帆 松下里穂

活動内容 —愛太陽ファーマーズマーケットとは—

愛太陽ファーマーズマーケットとは、対面販売により、農家さんとお客さんが直接出会う場を提供するために愛媛大学法文学部佐藤ゼミと JA えひめ中央太陽市（おひさまいち）が共同で行うファーマーズマーケット（農家市）です。

1 はじめに

- (1) 農産物直売所とファーマーズマーケット
- (2) 愛太陽ファーマーズマーケット開催の背景と意義

2 愛太陽ファーマーズマーケット開催まで

- (1) 当日までの流れ
- (2) 5つの役職

3 愛太陽ファーマーズマーケット当日の様子

- (1) 当日の流れ
- (2) 第7回愛太陽ファーマーズマーケットの実施概要

4 愛太陽ファーマーズマーケットが参加者に与える影響

- (1) 生産者に与える影響
- (2) 消費者に与える影響

5 おわりに

今後の課題と展望



<告知>

2018年4月22日（日）第8回愛太陽ファーマーズマーケット開催（予定）ぜひお越しください！ 時間：8：30～12：00 場所：工事のため検討中

Twitter: @aitaiyo_fm

Facebook: [tps://www.facebook.com/aitaiyofarmersmarket/](https://www.facebook.com/aitaiyofarmersmarket/)

【実践発表③「学生が運営する愛太陽ファーマーズマーケットの挑戦」の発表内容】

○ 愛媛大学法文学部人文社会学科佐藤亮子ゼミ 2 回生

菅花穂さん、迫田郁子さん、廣見夏帆さん、松下里穂さんの発表

まず、「愛太陽ファーマーズマーケット」の大きな説明をする。これは、愛媛大学法文学部佐藤亮子ゼミが企画・運営・出店者のサポート役となり、農産物直売所である「JAえひめ中央太陽（おひさま）市」と共同で行うファーマーズマーケットのこと。農産物直売所では地域の新鮮な野菜が購入でき、どの野菜をどの生産者が作っているのか分かる。農家にとっては、規格外品を出したり、自ら値段を決められたりできるというメリットがあり、スーパーマーケット等と契約が出来るような大規模農家ではない小・中規模農家の助けとなる。流通ルートは通常と異なり、一般的には農家が育てた野菜は、農協に委託されて卸売業者や小売業者を通して消費者の下に届く。直売所では農家が取れたての野菜を直売所に持って行き、そこで消費者に販売されるため、消費者にとっては「新鮮さ」「安心・安全」というメリットがあり、農家にとっては流通コストを削減できるというメリットがある。事業名では「ファーマーズマーケット」という言葉を使っているのは、朝市や街路市、マルシェなどよりも「農家」「生産者」を全面的に打ち出すことができると考えたため。ファーマーズマーケットの運営主体は市民団体やNPO法人、行政などで、農産物直売所との大きな違いは、生産者が消費者に直接販売を行う対面販売の方法をとることであり、生産者の顔が分かるので、消費者にとってより安心であること。



次に、愛太陽ファーマーズマーケットを開催することに至った背景だが、一つ目には生産者と消費者のすれ違いに対する問題意識があった。例えば、「安心・安全」に対する認識の違いとして、生産者は消費者が求める安全のために極力農薬を減らす。それによりどうしても病気が発生したり虫がつきやすくなったりし、それを買った消費者からクレームが寄せられてしまっていた。二つ目の問題意識は、消費者の食への関心の低さや正しい知識の不足から、より安い値段のものへ流れてしまい、直売所の中で安売り競争が起きてしまっていた。これらの問題は、生産者と消費者の交流の場がないために生じていると考え、愛太陽ファーマーズマーケットを開催し、対面販売によって消費者が生産者の想いや背景を知ること、ただ野菜を買って食べるだけではない「もう一つの味わい」を楽しんでもらったり、また、日頃出店している直売所本来の魅力や意義を知ってもらったりする機会を作ることとした。

愛太陽ファーマーズマーケットは、JAえひめ中央太陽市駐車場で開催。時間は毎回午前8時半から正午まで。2016年の5月から始まって、これまでに計7回実施した。次回は4月22日の予定。特徴は、JAえひめ中央太陽市と愛媛大学法文学部佐藤亮子ゼミの共同事業であること、学生が企画・運営・出店のサポート役をするということ、そして、エコロジカルを意識し、紙袋や古着古新聞を回収していること。

実施当日までの流れは、まず、太陽市との打ち合わせを行い、前回実施しての改善点等を話し合う。その後、出店者を選定し、後日、出店予定の農家さんを学生が訪ね、農

作業のお手伝いをしたり、苦労や工夫を実際に体験したりして、農家さんの想いを学ぶ。そして、それらを伝えるためにチラシを作成し、開催に臨む。写真は農家訪問の様子で、野菜の土を水で洗ったり、原木シイタケの収穫をお手伝いしたりしているところ。生産者と信頼関係を築くことが、消費者に伝えるためにも重要だと考える。チラシは、生産者のことをもっと知って欲しい、会話を生み出すきっかけにして欲しいと考え、内容を工夫している。自分たちが担っている5つの役職は、全体を取りまとめ、保健所・消防書への申し込みなどを行うディレクター、主に太陽市との連絡役を担うプロデューサー、ボランティアの募集・調整や備品購入のための情報収集などを行うリサーチャー、宣伝のための広報、お金の管理をする重要な役割のファンドマネージャーに分かれる。

次に、愛太陽ファーマーズマーケットが開催される当日のタイムスケジュールだが、まず、当日の朝6時に、太陽市駐車場に佐藤ゼミとボランティアの学生が集合し、準備を開始する。写真は、テントの設営や看板・チラシ・フラッグなどを設置している様子。8時になると、写真のとおり、出展者、学生がそろって直前ミーティングを行い、自己紹介をしたり一日の流れを確認したりする。8時半から12時までの開催時間中、写真のように、会話しながら買い物を楽しんでもらう対面販売が行われる。次の写真は、黒板にチョークで書いた看板やチラシなどで、お客さん呼び込みと同時に、生産者の取組を知ってもらうことで会話が生まれることを期待して作っている。学生たちは、会計や商品の受け渡しなどのお手伝いをするとともに、魅力やこだわりを伝え、生産者と消費者をつなぐ役割を果たしている。また、消費者アンケートを実施している。また、写真のようなゼミのブースも出しており、前回は餅つきの実演と販売を行った。出店者もみかんの詰め放題イベントやこんにゃく作り体験などを開いてくれたりして、バラエティ豊かなイベントが行われている。規模については、昨年11月に開かれた第7回目には出展者が19人、出店物は野菜や果物、加工品、花のほか、グリーンカレーなどの当日オリジナルメニュー等も出品してくれた。2～4回生のゼミ生が15人、学内の学生ボランティア24人が運営を手伝ってくれ、1,190人が足を運んでくれた。

この事業が生産者に与える影響としては、生産者同士の情報交換の場となっており、品質・技術の向上につながっている。また、消費者と交流することで直接生産物への感想を聞くことができることにより、モチベーションが維持・向上され、生産方法や販売方法を工夫するようになる。消費者に与える影響をアンケートの結果から見たい。第7回の会場アンケートには、初めての来場の方29名とリピーター7名が回答してくれた。回答者の64%が生産者と会話を交わしており、特にリピーターのほうが多く会話している。参加すればするほど生産者と交流し、対面販売の良さを実感している。また、価格設定についても、リピーターのほうが「価格が適正」だと判断しており、商品価値の理解が深まっていると言える。影響と変化について、新規来場者は「農家を身近に感じるようになった」と実感しているのに対し、リピーターは生産物に対する知識を深めるようになっており、レベルの高い変化が生じているようだ。

今後の課題は、知名度の向上。現在は太陽市に来ている人がファーマーズマーケットに回ってきてくれている状態。今後は「ファーマーズマーケットを目的」にして来場してくれる人を増やしたい。また、出店者がモチベーションを維持し、楽しんでくれるよう、マンネリ化を防ぎたい。そして、先輩から引き継いだこの事業を継続していけるよ

うにしたい。今後の展望としては、開催を定期化し、定着していくことで知名度の向上を図りたい。また、出店者を登録制にし、出店者数の安定化を図ると共に、準備の効率性を上げていきたい。

【実践発表③「学生が運営する愛太陽ファーマーズマーケットの挑戦」の質疑応答】

- Q 昨夏に足を運んだが、スイカのふるまいなどがあり、楽しかった。出店者についてだが、太陽市の登録者以外には？また、いつ開催されるかなどを自分も知らないのだが、告知などはどのように？最後に、来場者数に比べてアンケート回答者が少ないのはなぜ？
- A 太陽市に大変お世話になっているので、今のところそれ以外の出店者を募ることは考えていない。告知はTwitter やFacebook、CATVや太陽市の店内にポスター掲示しているが、ツールや場所をもっと工夫したい。アンケートは当日が雨天だったため、記入や回収が難しく、数が伸びなかった。晴天時には100人は回収できるので、その数を維持したい。

アイスブレイキング

○ 進行：森脇

①「知り合うゲーム（名前ゲーム）」をする。

- ・なるべく知らない人と6～8人ぐらいのグループを作る。
- ・一人ずつ簡単な自己紹介（名前・ニックネーム・活動内容等）をする。
- ・ぬいぐるみを持っている人からスタート。
- ・次の言葉を言って、誰かにぬいぐるみをパスする。

「〇〇さん（パスする相手）、△△です。（自分の名前）」

- ・もらった人は、「ありがとう、△△さん。」
- ・次に別の人にパスする。「□□さん。〇〇です。」
- ・以下、同じことを時間いっぱい繰り返す。



②「知り合うゲーム（別名ゲーム）」をする。

- ・今、ぬいぐるみを持っている人がオニとなり、中央に立つ。
- ・誰か、名前を呼んで指名します。「〇〇さん。」「右」「だるまさんがころんだ」
- ・指名された〇〇さんは、自分の右側の人の名前を言う。
- ・「だるまさんがころんだ」の間に右側の人の名前が言えなかったら、オニを交代する。
- ・指名方法は、「右」、「左」、「(だれかを指して) この方」、「私」、などもありとする。
- ・適当にオニを交代したり、座席をかえたりしてもよい。



インタビューダイアログ

○ 進行：まちづくり学校双海人 教頭 富田 敏さん

まず自己紹介がてら、というか、「まちづくり学校 双海人」の紹介を。まちづくり学校双海人は、地域住民による地域活性化の学び舎で、7年目を迎える。地域課題の解決にビジネスの手法を取り入れ、愛するふるさとを守るために学びと実践を繰り返している。校訓は『『ふ』るさとを愛し 『た』のしく学び 『み』んなが幸せになる』で、運営のキーワードは「多様性」「対等・平等」「オープン」「小さな社会実験から」としている。写真は、職員会議の様子やワークショップでアイデア出しをしている様子。この高校生はもう大学を卒業する歳になっており、先日は愛媛大学に卒論発表会を聞きに行ってきた。

学校が生み出したものを挙げていくと、「しずむ夕日が立ち止まる町の軽トラ市」「市民映画『あなたの大切なもの なんですか』」「しあわせの黄色いハンカチ」「下灘珈琲」「米ぬか酵素風呂『酵素まる』」「さら」「でざいんや」「ケアサポート とにかく笑えれば」「ぱんや107」「伊予市移住サポートセンター『いよりん』」「翠小学校」。

活動7年目を迎えるにあたり、メンバーの固定化や活動のマンネリ化、そして、講師のネタが尽きてきた。これらをどう解決していけば良いのか、今日は一緒に学ばせていただきたい。

大学生の皆さん、今日はリクルートスーツだが、みんなの日ごろの活動が分かるような、例えば愛太陽ファーマーズマーケットの緑色のジャンパーなどで登壇しても良いね。

それでは、「活動を始めたきっかけ」と「活動を通して自分が変わったこと」を、一人ずつお話しを。

- A 「観光まちづくり」に高校生の頃から興味があって、ゼミに入った。ゼミで行われていた先輩の活動を引き継いだ。活動を始めて変わったことは、実家にも小さな畑があって、農業に親しみはあったが、生産者の想いを知って、農産物を見る目が変わった。心の底から美味しいと思える野菜を食べて、農業への見方が変わった。【サコちゃん】
- A ゼミに入って関わり始めた。「観光まちづくり」ゼミは、フィールドワークや実践的な活動が魅力で、大学ならではのと思った。活動の準備を進めていく中で、先を考えて行動するようになった。農家を訪問して、苦労やこだわりを知って、農家さんへの感謝や生産物への感謝が生まれた。今まで交流することがなかった人たちと交流することができた。【カホさん】
- A 元々ボランティアセンターが地域に着目していて、助成金をもらうことになった。自分は北条に住んでいないので、歩いてみて知ることが多かった。地域と関わるようになって、成長したと思う。具体的には、コミュニケーションできるようになったことや、地域を知ることができたこと。【ゴリラさん】
- A 隣の人から、「リーダーをやってみないか」と言われたことがきっかけ。やってみて、知らなかった道や場所、人たちとつながることができた。【ももちゃん】

- A 大学の授業の課題でボランティア活動をする事になり、松山市ボランティアセンターを訪ねたことから「しみず」の活動に参加することになった。活動を通して自主的に動けるようになった。自信が生まれたし、活動をしていて「ありがとう」と言われることが多いので、自尊感情が高まった。【マッキーさん】
- A 授業で先輩の勧誘があった。高校でのボランティア活動は行事などの単発なものだけで、継続しての活動というのが珍しくて、「しみず」に参加することにした。活動で変わったのは、消極的で自分から動くことができなかったのが、動けるようになった。【ミッキーさん】
- F みなさん「外からの理由」で活動を始めていて、「ボランティアをやりたい！」と始めた人はいない。でも、ボランティア活動って、やっていない人のほうが多いはず。例えば愛大では？どれぐらいの学生がいて、どれぐらいの人が活動しているかな？【富田さん】
- A わたしは他にも国際交流のボランティアグループに所属している。月に2回ほどのイベントを行っている。新しい仲間を増やしたいと思うが、他の人と接点がなくて、新しい仲間が増やせない。【カホ】
- F 他に何かやってみたいことって、ある？【富田さん】
- A 他の団体と交流してみたい。【ゴリラさん】
- F 仲間づくりで成功しているところって、ある？（挙手なし）やっぱり、いないね～。そのあたりがきっとテーマになっていくと思う。ところで、「愛太陽」の名前の由来って？【富田さん】
- A 実は名付け親がそこに参加しているので・・・【サコ】
- A 消費者が生産者に「また会いたいよう」と思ってくれるようにとの願いを込めて、「愛太陽」と名付けた。【フロアから・愛媛大学4回生】
- F なるほど。では、愛太陽の活動について、もう少し詳しく。ファンドマネージャーという係があるということだが、一回のマーケットで、どれぐらいの金額が動いている？分かったら教えて下さい。さて、この事業、進化させたい？【富田さん】
- A 太陽市に来た人が流れてくるというのではなく、「ファーマーズマーケット愛太陽」を目的にして人がやってくるようにしたい。どうしたら良いか？【カホさん】
- A 軽トラ市のように、開催のマニュアルというか、ハウツーを配っていくようなことは？【フロアから】
- F 愛太陽には、どんな人が来ている？【富田さん】
- A 家族連れや主婦、高齢者が多い。【カホさん】
- F 「どんな人が来るか」から考えていくと、見えてくるかもしれない。さきほどの金額が分かったようなので、どうぞ。【富田さん】
- A 15万円から20万円が動いている。出店者の売上げの5%を太陽市に、5%をゼミにいただいている。活動資金は手元に残る状態。【フロアから・なっちゃん】

- F ボランティアには謝礼とかは？【富田さん】
- A 200 円分の太陽市お買物券を渡している。【フロアから・なっちゃん】
- F 200 円だと買えるものも限られるね。もう少し何かできるといいね。軽トラ市のボランティア謝礼は1000 円。でも、「一人でもやれるように」ということで、運営マニュアルを作っている。それを全国に配って、今や愛媛県内で軽トラ市は20 カ所ほどで行われるようになった。学生ボランティア24 人は、どうして来てくれるの？【富田さん】
- A 佐藤ゼミのついでで、ゼミ生のつながりや同じ観光系の他のゼミ生。社会共創学部でまちづくりに取り組んでいるゼミ生などを頑張って集めている。他のゼミから調査を兼ねて来てくれたりもしている。【サコ】
- F 何か「楽しいことがある」から、来ているはず。「行って良かった」のはず。これをうまく伝えと、仲間が増えるんじゃないかな。では、カタリナに質問を。ボランティア・センターのメリットは？【富田さん】
- A 福祉の大学なので、ボランティア活動に熱心。学生には支援課からラインでボランティア募集の情報が流される。いろいろな部署がある。【ゴリラ】
- F 合宿で四つの案が出ていたと思うが、どうして絞り込んだ？【富田さん】
- A 地域の人と話して、絞り込んだ。【ゴリラ】
- F これからどうやって仲間を増やしていく？【富田さん】
- A 行事への参加を呼び掛けたい。【モモ】
- F 「しみず」のお二人に。まず、マッキーは、いろいろなボランティア活動を体験してきたことだが、ボランティアの何に魅せられた？【富田さん】
- A 子どもに関わるのが楽しくて、将来の仕事にと考えてはいたが、自分に何が向いているのか分からなかった。学生のうちにいろいろな分野に飛び込んで、そこから仕事につながったりするのがすごいと思う。【マッキー】
- A 元々消極的だった。こういう場で発表すること自体が信じられないぐらい。いろいろな「機会をもらえた」と思う。【ミッキー】
- F ではここで、さきほどのグループで「自分は～～をしている」「これから～～をしてみたい」を話し合ってみて欲しい。あとで各班の学生さんに発表をお願いしたい。
【富田さん】

～グループで話し合い～

- F それではどなたか？（挙手した人をあてて、発表。以下同じ。）【富田さん】
- A 主に子どもたちと関わり、遊んだりしている。地方の学校を丸ごと借りて、学生がアトラクションなどを二日間にわたって行う。これからも続けたい。
【愛媛大学児童文化研究会・ツッキー】
- A 4Rings という活動をしている。メンバーが固定化し、マンネリ化している。全メンバーは200 人いるが、実際に活動しているのは20～30 人。何かやってみたいがアイデアがない。多くの人が活動に参加しやすいようにしていきたい。【松山大学・黒田さん】
- A 4Rings で活動している。清掃活動を行っており、毎年二つぐらいの新規事業に取り組んでいる。学内の自転車の鍵かけを呼び掛けたり、徳島のグリーンバードというN

- POと交流したりした。活動は大街道で開かれる生活展で紹介した。グループの中で双海の「図書プロジェクト」の話聞いて興味をもった。【松山大学・しんちゃん】
- A 児童文化研究会OB。夏の合宿は、人づくりでもありなかつくりの場。つながりが今でも生きている。SNSも良いが、「しみず」で行われているような手書きの日記などは、「そこに行かなければ読めない」というもので、そういうのがつながりになる。【愛媛大学教職大学院・学生】
- F 今日は高校生が一人参加してくれている。せっかくなので、発表を。【富田さん】
- A みんなの話を聞いて、限られた内容じゃなく、様々な活動をやってみたいと思った。【愛媛大学附属高校・学生】
- F それでは最後にお一人どなたか。【富田さん】
- A 4Rings で活動。清掃を担当しているが、どうしたら継続して人を集められるか悩んでいた。グループで話していて、幹部で決めるのではなくメンバーの意見も聞いたりすることや、公民館とのコラボなどの方法もあると思った。【松山大学・学生】
- F では最後に、それぞれの団体から一言ずつ。【富田さん】
- A より多くの人に知ってもらいたい。宣伝をがんばっていく。【愛媛大学・佐藤ゼミ】
- A 次につなげる。みんなを巻き込んでいく。【聖カタリナ大学学生ボランティアセンター】
- A サポートボランティアは学生だけじゃないので、8人から増やしていきたい。【しみずサポートボランティア】
- F ボランティアと地域づくりは、「やることに意義がある」と思う。ぜひ活動を続けてもらいたい。本日はありがとうございました。【富田さん】



講 評

今日は楽しい会をありがとう。

地域教育実践交流集会は12月9・10日に行われ、北海道から九州までの参加者が集まった。ブロック集会は南予、東予で行われ、この中予が締め会の会となる。

地域教育というのを立ち上げたのは、「子どもたちに居場所を・子どもたちに出番を・子ども

愛媛大学名誉教授 讃岐 幸治先生



たちに志を」と考えたから。一つ目の「子どもたちに居場所を」というのは、今、家庭では虐待が起きたり、食事がままならなかったりしている。学校ではいじめが起きたり、勉強についていけない子どもがいたりする。地域では子どもの遊び場もない。これはもう、家庭・学校・地域の壁を取っ払うしかない、と。子ども食堂や学習支援、遊び場づくり、みんなで子どもたちの居場所を作ったらいいんじゃないか。二つ目の「子どもたちに出番を」というのは、子どもたちに活躍する場を作りたい、いきいきして出番があるようにしたい。それがなければ、何のために生きているのか分からなくなる。ボランティアというのでも社会貢献というのでも、なんでもいい。「わたしはかけがえのない存在である」と子どもたちに感じさせたい。三つ目の「志」。これは自分の幸せと一緒に社会の幸せを考えられるということ。ちょうど今日は看護師の国家試験をやっている。知人のお子さんが受験しているが、国境なき医師団での活動を目指していると聞いた。地域で生きていくのでもグローバルに生きていくのでも、ネットワークを張り、支え合っていくことが必要。

今日の発表で、「生産者と消費者をネットワークでつなぐ」というのがあった。「教育の地産地消」をつくりたい。地域に教える人がいて、学んでいく人がいる。そういうネットワークをつくっていく。やっと芽が出始めたと思う。本日はありがとうございました。

閉会挨拶

地域教育中予ブロック集会実行委員会副委員長
谷川 玲子

今日の会で心に残ったのは「わたしも居場所をつくれる人になりたい」という言葉。今日ここに集まっているのは、誰かの居場所を作っている人だと思う。また、みなさんの居場所づくりのお話を聞いてみたいと思った。そして、この会自体が、みんなの居場所になったらいいなと思った。またお会いしましょう。ありがとうございました。



参加者アンケート結果

1 参加者について

(1) **参加者数** 97名 (高校生1名、大学生34名、一般62名) アンケート回答数82名
(H28年度 99名 高校生3名、大学生35名、一般61名)

(2) 参加者の居住地域

市 町	松山市	伊予市	松前町	砥部町	東温市	東予	南予	無記入
人 数	47	13	5	4	1	7	3	2

(3) 参加者の年齢構成

年 代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無記入
人 数	3	40	8	10	8	8	2	2

(4) 参加者の職種

職種等	学生	教職員	行政 関係者	NPO・地域づく り団体	公民館	その他	無記入
人 数	34	16	9	8	3	5	7

(5) 参加のきっかけ (複数回答)

きっかけ	家族・友 人・知人	チラシ	サークル	主催者から の誘い	研究室	発表者から の誘い	SNS・ブ ログ	その他
人 数	32	16	14	9	7	4	4	2

2 満足度 (興味や関心の度合い)

☆実践発表や協議は興味や関心のもてる内容であったか。

(1) 実践発表

項 目	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	無回答
割合 (%)	64	28	2	0	6

(2) 全体協議

項 目	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	無回答
割合 (%)	62	27	4	0	7

3 参加した理由（主なもの）

(1) 高校生・大学生

- 町づくりの様々な活動についてもっと知りたかった。
- 課題研究のテーマと関連があり、知識を増やしたかった。
- これからの活動のヒントや参考になればと思った。
- 自分と同じ年代の人たちがどのような活動をしているか知りたかった。
- 地域貢献、地域のコミュニティづくりのためにどんな活動をしているのか知りたかった。
- 来年度から教員になるが、学校教育だけでなく社会教育についてもしっかり学ぶ必要があると考えた。
- 語り合うことが好き。
- 今の活動を悩んでおり、他の団体から学ぶことによって、自分の所属する団体の糧にし、ゆくゆくは地域貢献につなげたいと思った。
- チラシを見て、ぜひ参加してみたいと思った。
- 昨年も参加して、市町の人とのつながりができ、この集会を通してボランティア活動もできるようになったので、今年も参加してつながりをもちたいと思った。

(2) 一般の方

- 若い世代と地域がつながるヒントを得たいと思った。
- 若者の具体的な実践例の理解を深めたい。
- 若い人たちの実践活動を通じた経験と学びを知りたかった。
- 新旧若者の出会いが楽しみだった。教育関係主催の集会等に参加してみたかった。
- 大学の時に教育や国際関係のボランティアに参加してきたので、興味があった。
- 地域づくりへの大切さを感じていることから。
- 実家が農家であり、ファーマーズマーケットに関心があった。
- 学校と地域のつなげ方のヒントを得られると思った。
- 学生との協働で、市町の事業の充実を図りたい。
- 実践事例を聞いて、やる気をもらいに来た。
- 公民館の学生ボランティア活動の参考にしたい。
- 地区公民館設立に向けてのたたき台にしたい。
- 昨年度も参加して、今年も楽しみにしていた。

4 感想や意見

(1) 高校生・大学生

- 年代や性別、職業の異なる人たちと意見交換、交流することができ、勉強になった。
- 大変ためになる活動ばかりで学ぶことばかりだった。今後もこのような感じで続けていってほしい。

- とてもおもしろく勉強になった。モチベーションの向上につながり、また参加したい。
- 自分と同じ年代の人が様々な活動をしていることを聞き、いい刺激を受けた。
- 今後の活動においてとてもためになる集会だった。サークル活動を通して、「居場所づくり」ができるようにしたい。
- 様々な活動をしている方々との話の中で、新たな発見がたくさんあった。非常に有意義な時間であった。
- 地域活性化のために、いろいろな団体の方々が各方面で活動していることを知り、感動した。
- 後半を通して、前半の発表の理解が深まった。
- 他大学、他団体の活動について知ることができた。この場を通じた意見交流によって、他団体との共同的な活動や意識の向上につながると思う。
- 様々な団体が自分たちのやっていない活動を多く行っていることがわかった。それと同時に、新しい活動を求める気持ちは同じだとわかった。
- これからの目標や方向性など、自分たちのサークルで行っているボランティアの意義を考えるきっかけになった。
- 今まで子どもに関わる活動中心に参加していたが、地域とも関わるようなボランティアにも参加してみたいと思った。自分の将来につながるようなことが知れてよかった。地域との関わりというのが思っているより身近なものに感じることができた。
- とても学ぶことが多くためになった。特にカタリナ散歩道が印象に残っている。私たちのサークルは、10月に大街道で行われる「生活展」で活動を発表しているが、もっと多くの人たちに自分たちの活動を知ってもらいたいと思っているので、散歩道の冊子を作るという方法がすごくよいと思った。
- どの発表も興味をもつことができ、カタリナ散歩道やファーマーズマーケットの活動は実際に活動がおもしろく、もっとSNSとかでいろいろ広報してほしい。今回の話はとてもおもしろくもっと知りたいと思ったからもっと広報すれば興味がある人はいっぱいいると思った。アイスブレイキングに関しては、あまり話す機会のない大人と楽しくできてよかった。
- 昨年度に比べて若者の参加数が増えていると感じた。非常に和やかな雰囲気でも過ごしやすいかった。私たちの街に地域教育に熱心に取り組んでいる学生が多くいて、大変うれしく思った。今後も学校教育だけでなく、社会教育を生かした教育を行い、よりよい子どもたちの未来のために日々精進していきたい。
- どの活動も継続していくにあたって、参加者の固定化やマンネリ化が課題としてあることを知り、継続することの難しさを再認識した。今後、どのように自分の携わっている活動を行っていくか、さらに別の地域活動へ携わっていくか考え直すよいきっかけをいただいた。本当に貴重な経験をさせていただいた。
- もっと話し合いの時間がほしいと感じた。話をもっている人が集まっていると感じたので、自分も話したいことがあったが十分に話せなかったり、聞けなかったりした。

- もう少しグループで話し合う機会があればよいと思った。自分の悩みしか話すことができなかったので、他の方にも発信していただけたらと思った。
- グループ活動は他の人の有意義な意見をたくさん聞ける時間なので、もっと時間をとってほしかった。自分が将来働きたいと思っている職種の人と交流ができたのでよかった。
- グループ内での意見交流があまりできなかった。でも、様々な団体の活動や志を知ることができ、新たな発見につながった。
- 自分の活動発表だけでなく、様々な分野での地域活動やボランティア活動について知ったり、広い年齢層の人と出会い、交流するしたりすることができよかった。
- 発表をさせてもらったが、とても楽しく充実した時間となった。どんな流れ、形で行うのかももう少し説明がほしかった。もう少し時間にゆとりがあってもよかったのかなと感じた。多世代交流、仲間づくりという観点からはとてもよい機会だった。

(2) 一般の方

- 若い世代の意欲にたのもしさを感じた。
- すばらしい若者に会えてうれしかった。
- 大学生の参加が多く、意欲的だったように感じた。もっと輪が広がればすばらしい。
- 大変時間が短く感じた。こういう機会をまたお願いしたい。
- 学生もとても前向きで、意識の高い方が多いことに驚いた。
- 自分の地域でも、学生とコラボした活動ができないだろうかと考える。
- 初めて参加したが、どの団体の発表もすばらしく、インタビューダイアログも楽しみながら行うことができた。私も地域の方々の力になれるよう活動していきたい。
- 学生の活動を取り上げる集会等はあまりないように感じるので、こういう活動、発表をつなげてほしい。また、地域とのつながりの必要性を感じたことと、学生のもっているすばらしい力を大いに感じることもできた。
- 学生が知恵を出し合い活動している。新しい取組などを通して成長している様子が聞けてよかった。今後さらなる広がりを期待したい。
- 学生たちの自分たちができることは何かという思いを、実践発表やグループでの話し合いを通して聞くことができた。
- 大学生が志をもつものすごく動いていてすごいと思った。つながりをもつ、広げるには、やはり動く、行動する(足を運ぶ)ことがまず大切だと感じた。そして、つながりをつくっていくことが大切だと感じた。
- 今日はたくさんの取組やいろいろな方の考えにふれることができ、よい時間を過ごすことができた。今、教員をしているが、受け持つ学級でも子どもたち一人一人が役に立っていると存在感を感じられるよう、関わり方や環境づくりをがんばっていきたい。
- いろいろな世代が集まり、このような研修をすることに意義がある。今後とも若い世代に期待している。地域教育の発展をみんなで目指していきたい。

- 参加している方は充実している様子だった。若者をグループに意図的に入れたのはよかった。学校教育の中で行っている取組（小中学校）の実践もいいかもしれない。そうすれば学校の教員をもっと取り込める。
- 旧若者が新若者にしてあげられることを考えてみたいと思った。「がんばれ、がんばれ」だけ言うのはよくないのかもしれない。
- 地域教育の思いは伝わったと思う。これからどう進んでいくかが重要である。
- 今まで知らなかった活動をたくさん知ることができてよかった。異業種、様々な年齢層の人と関わることができたのがよかった。
- 町おこしの活動について、いろいろな学生の活動内容を聞きすごいと思った。地域でも学生に動いてほしいというニーズはあるはずなので、どんどん広がっていったらいいと思う。他の参加者と話をする機会があったので、より深められてよかった。
- 多様な世代の方の話が聞け、大変おもしろい。
- たくさんの志の高い学生や参加者と出会え、つながることができた。来年も参加したい。
- 今後も継続して、集会に参加したいと思う。
- グループ協議では、人生の先輩からのお話も聞くことができ大変よかった。
- ファシリテーターが場を温かく盛り上げてくれ、とてもよかった。
- 「居場所」「出番」「志」改めて大切なことを感じる事ができた。自分自身もボランティアの支え手として、そして活動者としてがんばっていきたい。
- 学生という時間に一番余裕があるときに、様々な体験をさせてもらえるのがボランティアだと思う。今回参加している方以外の人はどうやったら体験（参加）してもらえるのが一番課題だと思う。また、今後もこのような機会があれば聞いてみたいと思う。
- ボランティアサークルのネットワークがさらにできればいいと思う。
- ライフワークとして、ボランティア等の地域の活動にみんなで取り組めたらよいと感じた。教育も福祉も一歩ずつ力を出し合って。
- 自分たちを含め、その上の世代も高齢化が進んでいく中、世代を超えた交流や参加型プロジェクト等があったらいいなはあっても、形にさせるのは難しいと思う。自分の住む地域にもしみずサポートボランティアの活動はとても参考になるものだった。
- 学生ボランティアの方の活動を知ることができてよかった。聖カタリナ大学の取組で、北条地区には鹿島もあり、地域がもっともっといい場所になるように願う。それぞれの活動で、協力できることを見つけていきたい。
- ボランティアや地域との関わりを通じて、学生にとってメリットがあることを直接卒業生の方から聞いたことはよかった。学生にとって先輩など年齢が近い人の声は影響が大きいと思う。
- ボランティア団体に所属しても、実際に活動することにはなかなか結び付かないという課題がよくわかった。「自らが考えて動く」という力を子どものうちから育てること、大人がその主体性を大切にしながらサポートすることができれば解決につながる。

がるのではないかと感じた。

- 双海人のまちづくり学校について知ることができた。エネルギッシュな生き方をされている方の存在に共感した。地域活性に不可欠なことは、関わる人全てにメリットや充実感、幸福感を味わうことで、持続可能な協働活動につながる条件だと考えている。事業や取組と同時に、それでどんな成果どう変化したか等、実感と実証ができれば明るい展望が見えると思う。そして最も大切な人と人のつながり、構築が実現するのではと思う。ボランティアがキャリア形成につながっていることがすばらしい。若者の実践はよくわかったが、若者と旧若者の交流の場としては、少し見えにくかった。
- 今後の進め方として、クロスジェネレーションをどのような形で実践するのかを研修する場にしてもらいたい。
- 継続して成果が出たものを紹介してほしい。実際にファーマーズマーケットのように他施設、他集団と協力できている実践例を知りたい。
- 昨年の講演のような形より、今年のような形態がよい。グループでの話合いの時間がもっとあればよかった。讃岐先生のお話がとても心にしみた。
- 小グループで活動を話し合っているときがすごく盛り上がっていた。その時間をたっぷりもつようにしたらよいのではないか。
- もっと話したいこと、聞いてみたいことはいっぱいあった。でも本当に楽しい集会だった。
- 大学生の一生懸命な発表が印象に残った。マンネリ化、メンバーの固定化への対策はどの団体も悩んでいることだと思うので、もう少し語り合いたかった。
- ゴール（到達点）がどこなのか、わかりにくかった。
- 全体協議では3団体とフロアをつなげ、何かのテーマについて話を聞いたかった。各団体の詳細を聞いても自分とはなかなかつなげにくい。学校が求めれば地域の様々な分野の手助けを得られるのだと感じた。子どもに様々な視点をもたせたい。